

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400410		
法人名	有限会社 ケアネット		
事業所名	グループホームみやこ		
所在地	札幌市手稲区前田12条10丁目13番8号		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街に有り2階建て1ユニットの民家に近い大きさのホームです。向かいには公園があり、土日や放課後は子供たちで溢れ、窓越しに子供たちをみる楽しみがあります。また、ホームで飼う犬は人気者で子供たちも遊んだり、ホームに誘って一緒にクリスマスを楽しんだ事もありました。ホームの居間は吹き抜けのガラス窓から、冬でも暖房を小にするほど暖かい日差しが入ります。入居者の皆さんの多くは居間で過ごすことが多く、2階のお部屋にいる方も階下のカラオケ等の歌声に誘われて降りてこられます。食事近くになるとまな板の音や料理の匂いが2階にも届き、自然と居間の食堂に集まってきます。居間での団欒を大切に、子供を含めた地域とのふれあいもあるホームであるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0170400410-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170400410-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成26年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点の一目つは、利用者を担当する職員が毎月提供している手書きの「お便り」で、内容の温かさ丁寧な文章に目をみはります。家族にとっては利用者の暮らしの様子が伝わり安心の絆が構築されて、家族からのアンケートにも表現されています。二つ目には食事の工夫です。冷蔵庫の在庫を調べながらの献立は職員自らい、家庭の味が移入されて調理されています。メリハリの利いた、食材を生かしたしっかりとした調理は利用者間で大評判で笑顔も生まれます。三つ目には口腔内の清潔保持が挙げられます。入居の際には、歯科医による無料検診が行われ、入居後のケアの是非を判断しています。訪問歯科医の治療や歯科衛生士による口腔ケアが毎週行われています。管理者及び職員は認知症治療における口腔内のケアの重要性を十分熟知して支援しています。このホームを総じて評価すると家庭そのものと言った感じで、利用者は一緒に暮らす家族・・・との思いを深くしました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「ゆっくり、楽しく、一緒に」を念頭に、各人の生活を大切に、地域や家族との関わりも深くあるよう職員一同努めています。	ホームの運営理念が示すとおり、利用者本位の暮らしが展開され、管理者と職員は共に利用者と肩を寄せ合って過ごしながら、暮らしの中に喜びを見出すケアを進めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りが前の公園で行われることもあり、地域行事には積極的に参加するようにしています。飼犬のコタローは子供が来たり、犬好きな方が寄っていく地域とのつなぎ役になっています。入居者様の散歩に声をかけて頂く事も多いです。	地域の深い理解に支えられて、夏祭りなど住民と一緒にの付き合いが毎年続けられています。ホームの愛犬は地域の子供たちにも愛されるなど、地域とのふれあいに一役買っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてのビデオ研修や病気に関する知識の共有と検討、研修会や講演会への参加を心がけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月おきの定期開催としています。町内会からは毎回3名の参加があり、家族や地域包括センターの職員さんも毎回参加されます。内容は行事や生活の報告に加え、避難訓練や認知症に関わる勉強会等、サービス向上と一緒に協議しています。	町内会、老人クラブ、家族及び地域包括支援センター職員の大きな支えにより、定期的に会議が開催されています。当面する問題や利用者の状況など細やかな報告がなされ、また質疑応答などの内容は議事録を通して覗き知ることができ家族に送付されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは待機状況の連絡のほか、必要に応じて適宜アドバイスを受けるようにしています。	市の担当窓口から介護保険全般に関わる指導を得ていますが、ホームの状況、とりわけ入居希望者の待機状況など連携を取りながら協力関係を進めています。今後は外部評価で得た結果などを報告し、改善に向けた取り組みを図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修にも各自興味のある研修や講演に出かけられるよう便宜を図っています。身体拘束や医療の知識の共有など内部研修もおこなっています。夜間の防犯上の施錠以外に鍵をかけることはなく、一人外出されるような時も、あとから付いて歩き危険なく戻ってこれるようしています。	研修出席者の報告を職員みんなで共有しながら、身体拘束・虐待防止の徹底に努めています。外出願望の利用者の場合は職員がそれとなく同行するなど、満足感に浸っていただく細やかな配慮が行われています。玄関は防犯を考慮し夜7時30分から翌朝7時30分まで施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束虐待については法人代表者自ら話し合いの場をもうけるなど、意識の共有とゼロを目指した取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだことを持ち帰り発表し、日常生活自立支援事業、成年後見人制度についても知見を共有するようにしています。実施ケースはまだありませんが、手続きなど必要時は相談に乗れるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に料金の内容や介護制度、重要事項の説明を充分におこない、質疑応答にも時間をかけています。制度の変更や契約内容の変更時も説明と同意の時間を設けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部苦情窓口については契約時に重要事項説明書に記載されていることと、申し立てが不利益に働かない事を説明しています。苦情BOXの設置や苦情窓口者も設けていますが、ご家族からの苦情とまでない疑問質問にも真摯に対応するように心がけています。	家族の訪問頻度が高く、訪問時の会話により意見などの収集が行われていますが、今後はより一層のコミュニケーションによる絆を深めようとしています。家族会は最近、開催が滞りがちですが、苦情BOXの利用効果を高めるため、名称の変更を考慮し家族への周知に努めることとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の実施以外に、日頃から職員個々の意見や提案を連絡ノートや出勤に合わせて協議するなど、柔軟に対応できるよう努めています。	定期的に行われるカンファレンスや職員会議を利用した意見交換が行われるほか、毎日のモニタリングを収録する申し送りや連絡ノートを利用した意見、提案が行われホーム運営に役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は来所持、個々の職員に声をかけ個々人と話し合う時間も設けています。また、就業契約に関わることも職員会議のほか、個々人の質疑応答にも都度答えるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や経験に応じて、研修や講習の案内を見せて参加の有無の確認や促しをしています。また、個々人が興味ある研修等への参加の意向を示した時は、勤務の便宜を図るよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症高齢者グループホーム協会に加盟しており、研修事業や情報の交換に努めています。また、他のグループホームとの広報誌の共同発行や手稲区のグループホーム管理者会議にも参加し交流や情報交換に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人面談や家族との面談を通し詳しいフェイスシート作りを心がけ、入所前のサービス機関やケアマネからも情報を得るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の心がけ以外に、キーパーソン以外のご家族の声もできる限りお聞きできるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	項目に記載された通りの対応を心がけています。実際に毎週の地域の会合に参加されている方もいます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	加齢と共にできないが増えてきますが、生きがいをもっていることや出来る事での参加を促し、職員全員が重要視点と考えて実践しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所回数が多い方はもとより、遠方におられる家族の方にも必要に応じてご相談する事を心がけており、来所時やお電話の折、あるいは毎月のお便りにて近況報告を欠かさないよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際には関係が薄れてくるものですが、職場や地域の友人等が訪れた際には再来がしやすい雰囲気作りを心がけてきました。現在も地域の友人宅での集まりに毎週のように出かけている方もおられます。	利用者の知人友人は僅かとなってはいますが、それらを大切に継続できるよう職員全員で支援しています。毎月訪れてくれるボランティアの手品や歌声に皆も馴染みとなって楽しまれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の重要事項と考え把握に努めています。対立や孤立には職員が自然な形で介入し、良い関係作りやフォローに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後のお見舞いも出来る限り心がけています。実際、退所後にご家族から近況報告があったりお便りがあったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の自宅での生活ぶりや興味事項は、都度ご本人やご家族にお聞きし「目的不明の言動」にも意味があると考え把握に努めています。	入居時の情報収集で、家族から得る利用者の生活歴などを大切にして、ホームでの暮らしに役立てています。意識の下に潜む潜在意識の掘り起こしで、意向や思いの把握に役立てることが多くあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りに加え、入所後も機会あるごとにご本人や家族の思い出話などを伺い意向の把握や暮らしの向上に繋がるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや知り得た情報を適宜伝達することで心身の変化の把握や支援の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護の会議は月に1～2回行くと共に、心身の変化の情報把握と伝達は常におこなっています。必要に応じてご家族にも連絡し対応を相談しています。誕生会等の行事についても本人やご家族から情報を得て食事などに反映させています。	毎月開催されるカンファレンスでは、利用者の心身に関わる情報を的確に捉えながら、家族に相談して新たなケアプランの必要性について協議しています。日々のケース記録ではプランを把握し、反映された記載が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載は基本とし、申し送りや業務の中で伝達や知見の共有を心がけ、日々のケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況に合わせ、買い物の同行や散歩にお誘いしたりゲームや手芸活動、ビデオ鑑賞などをおこなっています。また、ご家族との急の外出等も積極的に応じています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでのコンサートに町内会の方をお誘いしたり、町内敬老会のカラオケに参加したりしています。また、手品ボランティアや音楽療法などを毎月定期的におこなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人のご意向に応じて、かかりつけ医の継続や訪問診療、協力医療機関への通院をおこなっています。予防注射や定期的な健康診断の実施も心がけています。	これまでのかかりつけ医への継続治療は、本人、家族の意向を踏まえて行われています。また、ホームの協力医による通院、平素の健康管理なども行われ家族の安心を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	項目に記載された通りの対応を心がけています。管理者は看護師であり心身の変化は常に報告し、訪問診療の医師や看護師とは24時間相談できる契約が結ばれています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への介護や看護に関わる添書は努めて提出しています。また、入院中は努めてお見舞いし看護師等との情報交換に努めています。実際、ご本人の不安な言動から予定を早めて退院して、治療や通院をホーム看護師が担ったケースもあります。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話し合いを持ったケースはありましたが、看取ったケースはありません。今後ホームでの看取りのケースを考え、昨年からの訪問診療を実施し医療機関との連携を強化しています。	入居時に説明し同意を得ている指針に従い、終末期や重度化への移行に対処しています。医療連携体制も敷かれ、医師及び家族との連携を密にしていますが、現在のところ看取りのケースはありません。管理者は今後に応じたスキルの向上に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施やマニュアルを作成しています。また初期対応の強化として連絡網の作成や訪問診療の医療機関と24時間体制で対応指示が得られる契約を結んでいます。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害時の避難訓練の実施と地域住民の協力のあり方について協議を重ねています。スプリンクラー設置と自動火災報知機を設置し、火災報知機は野外にも報知音が響き近隣住民の協力が得やすいようにしています。	運営推進会議の開催に合わせた避難訓練が行われ、家族や地域住民の方々にも参加していただいています。特に居室の多くが2階にあるなどの条件の中で、訓練が行われていますが、近隣住民の参加や最低限の備蓄には不安が残ります。	前回の外部評価でも指摘されました緊急時に際した住民の支援は十分でなく、支援のポジションを明確にした要請並びに最低限の備蓄への取り組みが大きく期待されます。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	代表者による職員への講習や研修会への参加などで継続的に研鑽しています。	管理者及び職員は、利用者の人格の尊重やプライバシーの確保について、機会あるごとに自らのサービスを振り返りながら、適正化に努めています。特にトイレへの誘導や入浴時の対応など言葉かけに気配りしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者様の希望に添い自己決定ができるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いていないか職員同士で協議しあったり、ご本人やご家族に相談や聞き取りをおこない、出来る限りの支援をさせて頂いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の好みの服装を基本とし洗濯や着替えに配慮しています。理美容もご本人やご家族と相談し馴染みの美容師さんの訪問カットや店への引率などの支援をしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	節の行事に合わせた食の提供やメニュー表の記載によって献立や食材の重複が無いよう心がけています。食材の下準備やかぼちゃ団子と一緒に丸めるなど入居者様の参加も心がけています。	旬の食材を上手に使った食事は、彩り並びに味ともに食欲をそそる献立で提供されています。配膳や下膳など利用者が助け合っの作業が特に目を引きます。食事の内容は運営推進会議で紹介されていますが、今後は家族全てに周知することとしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初め5日間は食事の食材や調味料の計量をおこないカロリー計算と栄養バランスの検討をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の健診と歯科衛生士の口腔ケアを毎週受けており、診断や助言を基に口腔ケア等の実施に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	加齢や認知症の進行に伴いトレーニングパンツの使用は増えていますが、個々に合わせたトイレ誘導や声掛けでトイレでの排泄を心がけています。	個々の身体能力に応じて、自尊心に配慮しながらトイレでの自立排泄を支援しています。リハビリパンツの使用も増加の傾向にありますが、排泄パターンを把握しながらそれとないトイレ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックは毎日おこなっており体操や散歩もおこない予防に努めています。また、個人に応じて排泄チェックもおこない医師からの指示のもと服薬剤の調整もおこなっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方でも週2回以上を基本とし、曜日や順番を決めることなくご本人の意向に沿って入浴を実施しています。統計的に毎日3~4人の方が入浴を楽しまれています。	入浴は利用者の希望やタイミングに合わせて楽しんでいただけるよう毎日準備しています。入浴を拒む利用者もいますが、少なくとも週に2回の入浴でリフレッシュした暮らしの支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意向で夜間の歌番組等の視聴で起きていたり早く休まれたりします。朝食も個々の起床に合わせて提供しています。夜間の不眠時は居間で過ごしてもらったり職員が話を伺って気持ちの安定を図っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効能や副作用がいつでも閲覧可能なように綴っています。また、身体状況の変化においては副作用ではないか確認しつつ対応を検討しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多くの方がカラオケや音楽番組の録画鑑賞を好まれています。漫然と日々が過ぎないように手芸やゲーム、買い物同行などを織り交ぜて気配りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天日は冬でも入居者様から散歩の希望が出ることもあり時々に応じて支援しています。飼い犬とのふれあいや公園での子供たちの様子を見ながらの外気浴もおこなわれています。外出行事には家族の参加もあります。	夏季には天候を見ながら毎日の散歩を欠かさずことなく行っており、身体機能の維持に役立てています。ホーム前の公園は散歩やベンチでの外気浴に最適な馴染みの場となっています。冬季間でも雪多い路面に注意をしながら散歩を繰り返す利用者もおり職員の支援が続いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせてご自身でお小遣い程度の管理をしている方もおります。また、ご意向に合わせてお預かりしているお金で買い物代行や買い物同行もしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員から電話することを勧めたり、遠方のご家族にはお電話頂けるようお便りに記載したりしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの掃除や環境整備は朝夕の定期時以外にも適宜おこなっています。日差しの強い日にはカーテン等で遮光したり、室内温度計を計測しつつも体感に合わせ風の取り入れや暖房の調整をおこなっています。	一般の民家を想定した造りは、バリアフリーとまでいかない箇所もありますが、利用者の自立した生活感覚により大きな不便もなく、暮らしにメリハリ効果をもたらしています。テレビを囲うように配列された大型のソファ、食卓のスペースは明るい日差しが差し込み、天井の吹き抜け効果により開放感に浸ることが出来ます。廊下の随所にベンチや椅子が並べられ、エレベーターを利用の際にも便利です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は決めつつも時に変更し、食事以外は自由に過ごせるよう心がけています。玄関前や廊下にも椅子やベンチを配置してあり、夏季は玄関ドアを開けている事も多く、玄関前の椅子に座りフード越しに公園の様子を眺めている方も多くいます。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはその趣旨をご家族に説明し使い慣れた家具や洋服、食器等を持ってきて頂くようにしています。また、入居後もご本人の気にかけている所持品や生活用品をお持ち頂くようご家族と連絡をとっています。	居室の多くは2階にあり、エレベーターを利用するの昇降が多く見られます。居室には思い思いの生活用品が持ち込まれ、安心のスペースとなっています。暖房はパネルヒーターにより一定の温度管理が行われています。利用者によりシンプルな居室もありますが、家族の写真や手工芸品の囲まれた暖かな雰囲気の良い空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームは二階の居室が多く、台所や居間から見えない位置にベンチ等が配置してあるなど、一人になれるスペースが多くあります。吹き抜けがあることで二階の行動音も聞こえやすく、適宜居場所の確認をしつつも監視感が無いよう心がけて安全に気を使っています。			